



LET'S PLAY

Indiaca

Japan Indiaca Association ● (社)日本インディアカ協会

社団法人 日本インディアカ協会

平成 15 年度事業計画 (概要)

スポーツ本来の持つ意味は幅広く多様である。遊戯性、闘争性、技術性、社交性等の要素を持ち、この要素をバランスよく配合し、大会や日常活動に取り込むことによって優れたスポーツが成長すると言える。

ふれあい・交流・健康・競技等の市民の多様なニーズに応えられる幅の広いインディアカ活動を展開しなすければならない。

組織の充実発展は、会員、公認審判員の拡大と共にその資質の向上にも努めなければならない。また、組織を支える人材と共に重要なことは、インディアカの今後の進むべき方向を考え、示さなければならない。

一方、会員、公認審判員の全国分布をみると、都市部にその数が集中し、都市部以外の道府県との差が顕著である。

本年度の重要課題としては、都市部と地方の差を少しでも縮めるため、積極的な対策を講じたい。具体的には日本協会から委嘱された認定員に協力を仰ぎ、最低1年間に1～2回の「普及審判員認定講習会」を開催するよう強くすすめ、人材数格差を少しでも埋めたいと考える。

会員、公認審判員の資格有効期限延長(2年から3年)は、2003年3月31日分で全て完了したが、これにより更新者が多少減少したことは否めない。しかし新しいインディアカ愛好者を拡大し、少しでもその穴を埋める努力を更にしなければならない。

競技規則については、改定後2年を経過し、本年は指導審判員研修会での討議や、各都道府県協会関係者から寄せられている意見を集約し、指導・技術委員会を中心に検討したいと考える。改定されたルールを理解、浸透が遅れていることに関しては、コミュニケーションの不足にあったと思われる。従って本年は、各ブロック協議会に日本協会も参画し、意見交換の場をつくり、相互理解を深めていきたい。

【競技会の開催】

【各種全国大会】

- 『第10回(2003) ジャパンフレンドシップインディアカリーグマッチ』
・ 2003年7月21日(祭) 東京体育館
112チーム(600名)
(社)日本インディアカ協会の個人会員、公認審判員を対象にして毎年1回開催され、日頃の練習の成果

の発表の場として、会員相互の親睦・交流の場として評判の高い大会である。

今回も、昨年同様「ふれあい・交流の場」に加えて「第2回ワールドチャンピオンシップス」の日本代表を選出するため、「オープン選手権の部」を設けて実施する。

- 『第6回全日本シニアインディアカ大会』
・ 2003年11月30日(日) 愛媛県「愛媛県立武道館」
72チーム(400名)

この大会は、スポーツ振興基金の助成を得て、開催されるもので第6回目となる大会である。

開催地を東と西を交互に設定して、できるだけ大勢の愛好者が参加できるようにしていきたい。

20年の歴史の中で、若い世代の台頭と共に、技術、体力のレベルがアップされ、年齢のハンディキャップは、競技に直接影響し、競技する楽しさや喜びを著しく阻害してしまう。従って、シニアの大会を独立させることにより、中高年のインディアカ愛好者の場をつくる意味がある。

- 『第26回全国インディアカ大会』
・ 2003年9月21日(日)
広島県廿日市市「サンチェリー」 72チーム(400名)

「第57回全国レクリエーション大会」の中で開催される。

今回は昨年スポレク祭を開催した広島県インディアカ協会が、その経験を生かしての大会となる。

- 『'03オールジャパンレディースインディアカ大会』
・ 2003年9月28日(日) 大阪市「大阪府立体育館」
95チーム(480名)

- 『第16回全国スポーツ・レクリエーション祭』
・ 2003年11月1日(土)～11月4日(火)
香川県香川郡「香川町体育館」 48チーム(480名)

【ブロック大会】

- 『北海道・東北ブロックインディアカ大会』
・ 2003年9月14日(日)
岩手県花巻市「花巻市総合体育館」
- 『関東甲信越ブロックインディアカ大会』
・ 2003年11月16日(日)

栃木県大田原市「大田原市県北体育館」
84チーム (430名)

●「東海・北陸ブロックインドアカ大会」
・2003年8月24日(日)
福井県大野市「エキサイト広場総合体育館」
60チーム (300名)

●「中・四国ブロックインドアカ大会」
・2003年6月15日(日)
鳥取県米子市「県立米子産業体育館」
72チーム (400名)

●「関西ブロックインドアカ大会」
・2003年9月7日(日)
奈良県斑鳩町「斑鳩町体育館」 48チーム (250名)

●「九州・沖縄ブロックインドアカ大会」
・2003年6月29日(日)
佐賀県佐賀市日の出「佐賀県総合体育館」
60チーム (350名)

【普及審判員拡大キャンペーン】

(社)日本インドアカ協会、都道府県インドアカ協会の発展は個人会員並びに普及審判員の拡大にかかっていると一言しても言い過ぎではない。

現在都市部に集中している会員、普及審判員が全国にバランスよく配置されることが最も望ましいと考える。

今回のキャンペーンは、期間を1年間として最低1～2回の「普及審判員認定講習会」を開催し、新規登録者を拡大し、普及審判員数の地域格差を少しでも埋めることに主眼を置く。

インドアカ国際審判員4名合格

2000年5月に国際インドアカ協会(International Indiacca Association)が設立され、国際大会の審判を司る「国際審判員」の養成に着手した。

2002年10月、ドイツのカールスルーエで開催された「第1回ワールドカップ」に合わせて開催された「国際審判員認定講習会」に日本から4名の指導審判員が参加し、見事試験に合格、「国際審判員」資格を取得した。2001年8月に日本人7名の国際審判員がすでに誕生しているの合計11名の「国際審判員」が認定されている。

<国際審判員資格取得者>

2002年10月30日取得

1. 奥田 幸夫 (千葉県インドアカ協会・認定員)
2. 長谷川忠信 (神奈川県インドアカ協会副会長)
3. 山崎 憲 (東京都インドアカ協会理事・JIA 事業委員)



4. 鴻野真知子 (大阪府インドアカ協会)
2001年8月15日取得

1. 瀬戸 章嘉 (大阪府インドアカ協会理事長・JIA 指導・技術委員長)
2. 田口 久男 (我孫子市インドアカ協会会長・JIA 監事)
3. 宮城 重男 (東京都インドアカ協会理事・JIA 指導・技術委員)
4. 石井不士男 (JIA 指導審判員)
5. 西田 真弓 (寝屋川市インドアカ協会会長)
6. 塩脇 紀子 (船橋市インドアカ協会会長・JIA 理事)
7. 松原 京子 (JIA 指導審判員)

〈大会の報告〉

1st Indiacca World - Cup 2002 in Karlsruhe
(第1回 インドアカワールドカップインカールスルーエ)

2002年10月31日～11月3日

2002年11月、最初のW杯がドイツのカールスルーエで加盟6カ国が参加して開催された。

日本からは、一般の部男子(1チーム)、女子(1チーム)、男女混合(2チーム)そしてシニアの部男子(1チーム)、女子(1チーム)、男女混合(1チーム)が参加した。今回は、2002年6月に開催された「第9回ジャパンフレンドシップインドアカリーグマッチ」のオープン選手権の部で優勝した埼玉の「プラスワン」を中心に、上位入賞を果たしたチームのメンバーで臨んだ。

20歳代の若いプレーヤーが正式の国際大会に参加したのは、初めてであり、ナイスプレーが期待された。

競技の結果は、一般の部男女混合で見事3位に入賞し、喜びをかみしめた。特に地元カールスルーエのチームと対戦した3位決定戦のゲームは、大きな盛り上がりを見せ、会場がドイツと日本の二つに分かれ、応援合戦が繰り広げられた。各国のチームが日本のきれいで鮮やかなプレーと身体が小さいというハンデをもとめせず高いジャンプから打ち出す攻撃とすばやく正確なレシーブに拍手喝采が送



られた。

日本チームがコールされ、表彰台に選手たちが昇った時、観客、各国選手の歓声と拍手は頂点に達し、涙、涙の表彰式であった。

一般の部女子も予選を1位で通過し大きな期待が寄せられた。しかし、25点3セットマッチとネット220cmという壁がたちはだかり、スタミナを失ってしまい惜しくも4位入賞にとどまった。

入賞を逸した他の日本チームも、国際交流という点からは皆入賞できたと信じている。

2004年は「第2回インドアカ世界選手権大会」が日本で開催されることが決定している。皆さんの参加を心から期待するものである。

Deutsches Turnfest Indiacca 2002 in Leipzig (2002全ドイツ体操祭インドアカ大会)

2002年5月18日～5月22日

100年以上の伝統をもつスポーツの総合大会で4年に1回開催されている。インドアカは前回(1998年ミュンヘン大会)から正式種目として位置づけられており、日本は特別に参加が認められている。日独交流の場としては絶好の機会である。

今回開催地になった「ライプツヒ」は、偉大な作曲家バッハをはじめワーグナー、メンデルスゾーン、シュウマンなどが育ち活躍した都市である。

文化・芸術の薫り高い中でスポーツを楽しむことができたことはラッキーであった。

大会はシニアの部女子と混合に参加、ドイツ各地から参加したチームと熱戦を展開した。シニア女子チームが身長差の差を見事なだけ普段の実力を十分発揮し、準優勝に輝いた事は賞賛に値する。

そして女子の足りないドイツチームに日本の女子選手をレンタルし、日本とドイツによる混合チームができあがり、このチームがシニア混合の部で優勝した。



02 ジャパンフレンドシップ インドアカリーグマッチ

渋谷区千駄ヶ谷「東京体育館」
2002年6月9日(日)

参加チーム全部を8グループに分け、グループ対抗で競技するユニークな大会も今回で第9回を迎えた。同じカラーのシャツを着たチーム同士は対戦せず、違うカラーのシャツを着たチームと対戦し、勝者にはそれぞれポイントが与えられ、そのポイントの合計で優勝グループが決まるといふ他には類をみない大会である。

今回は内外の要望に応え、従来に加えオープン選手権の部を設けて2002年の日本のクラブチャンピオンを決めると共に、2002年10月にドイツ・カールスルーエで開催された「1st World Cup」の日本代表を選考し、優勝した「プラスワン」を中心に日本代表チームを構成し、派遣した。

<結果>

・フレンドシップの部

優勝：<サックス グループ> (182ポイント)

- ・かしまし会(千葉)・ふじしろフェニックス(茨城)・KKI(東京)・大網ウイング(千葉)・御殿場同好会(静岡)・I.I.C.(埼玉)・アビス(千葉)・ウイング(東京)・マザーエイト(茨城)・ゴロピカリB(群馬)・調和I.C.(東京)・かわせみ(埼玉)

準優勝：<イエロー グループ> (181ポイント)

- ・高円寺NS-EC(東京)・北谷ICアドバンスB(埼玉)・AIA(愛知)・ボンバーズ(神奈川)・岩槻B.I.P(埼玉)・羽田インドアカサークル(東京)・スマイルズ(埼玉)・コシヒカリーズ(新潟)・フォルテシモ(千葉)・オリブス(埼玉)・カサブランカ(東京)・フレンズBハンドパワーズ(千葉)

・オープン選手権の部

優勝：「プラスワンA」

埼玉県

(2002年クラブチャンピオン)

準優勝：「飛翔会」

埼玉県

第3位：「WOODS INDIACA CLUB」

愛知県

第4位：「レッドウイングス」

千葉県

第5位：「沼津コロコロ」

静岡県

第6位：「湖北台I.C」

千葉県

第7位：「ファミリースペシャル」

栃木県

第8位：「ウルトラファミリー」

栃木県

第9位：「K・Hクラブ」

東京都

第10位：「湘南アクア」

神奈川県

第11位：「ビアーズ」

群馬県

第12位：「∞〇八」

東京都



《第5回全日本シニアインディアカ大会》

千葉県成田市「成田市総合体育館」
2002年11月24日（日）

茨城県ひたちなか市で第1回大会が開催され、瞬く内に第5回大会を迎えた。本大会はくスポーツ振興基金への助成を受けて実施されているもので、各都道府県持ち回りで開催されており、2003年は愛媛県松山市で開催の予定。

この大会の特徴は過去をさかのぼっても怪我人がほとんどでいていないこと、競技がなごやかで笑顔と快汗いっぱい
の大会である。

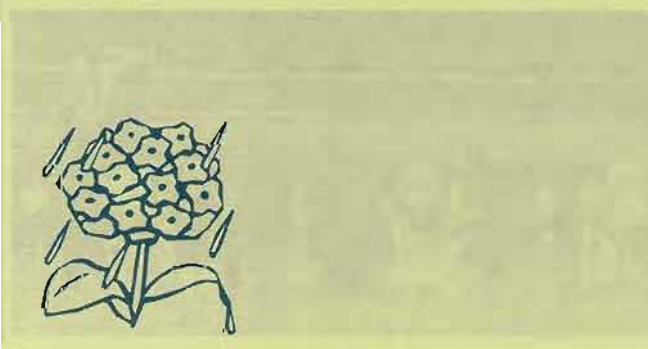
＜結果＞

・女子の部

- 1位グループ 優勝 千葉県「マーメイド」
第2位 埼玉県「KASIMI」
- 2位グループ 優勝 神奈川県「フレンドリー」
第2位 東京都「練馬すずしろ」
- 3位グループ 優勝 愛媛県「重信クラブ」
第2位 東京都「泉南インディアカクラブ」
- 4位グループ 優勝 茨城県「石岡クラブ」
第2位 埼玉県「MIA」
- 5位グループ 優勝 千葉県「パンピ」
第2位 千葉県「HAMAJUKU」

・男女混合の部

- 1位グループ 優勝 千葉県「ファースト」
第2位 栃木県「ひまわり」
- 2位グループ 優勝 千葉県「フェニックス」
第2位 茨城県「ふじしろフェニックス」
- 3位グループ 優勝 千葉県「赤い鳥」
第2位 東京都「日野アパッチ」
- 4位グループ 優勝 石川県「石川スパークII」
第2位 千葉県「習志野台コスモス」
- 5位グループ 優勝 埼玉県「平沼VIC」
第2位 千葉県「湖北台IC」



《2002関東甲信越ブロック大会》

茨城県竜ヶ崎市「たつのアリーナ」
2002年7月14日（日）

今回の関東甲信越ブロック大会は、関東地区1都8県から推薦を受けた79チームが参加資格を得て、大会に臨んだ。

大会方式は、スポレク祭に似た方式で運営され、各部門1位から最下位までが決められた。したがって各部門の2002年度関東ナンバーワンが決定した。

あくまでこれは実験的試みであり、今後ずっとこの方式で行うかどうかはわからない。現在、市町村大会、都道府県大会、ブロック大会、全国大会と数え切れない数の大会が実施されている中に、組織づけられている大会は皆無である。市町村が都道府県に、都道府県がブロックまたは全国につながっている大会が一つぐらいあってもいいのではないか、また1年に1回ぐらいは自分のチームの力がどのレベルにあるかを知る機会があってもいいのではないかという発想から、関東甲信越ブロック協議会が全国初の試みとして実施したものである。

＜結果＞

- 一般女子の部
 - 第1位 埼玉県「びたみんM」
 - 第2位 埼玉県「ザ・イズ」
 - 第3位 埼玉県「アクセル」
 - 第4位 千葉県「マーメイド」
 - 第5位 埼玉県「アニモ」
 - 第6位 千葉県「サンライズ」
- 一般男子の部
 - 第1位 埼玉県「コンドル4S」
 - 第2位 新潟県「山の下淡麗」
 - 第3位 神奈川県「MAGIC」
 - 第4位 千葉県「爆笑会」
 - 第5位 東京都「八王子スーパードライ」
 - 第6位 茨城県「スターズ」
- 一般混合の部
 - 第1位 埼玉県「ふりっばB」
 - 第2位 埼玉県「プラスワン」
 - 第3位 神奈川県「鶴見ベアーズ」
 - 第4位 千葉県「赤い鳥」
 - 第5位 埼玉県「ひまわり」
 - 第6位 茨城県「石川のんき会B」
- シニア女子の部
 - 第1位 埼玉県「インディーズ」
 - 第2位 千葉県「柏フレンズ」
 - 第3位 埼玉県「庄和インディアカ」
 - 第4位 神奈川県「茅ヶ崎アパッチ」
 - 第5位 栃木県「あすか」
 - 第6位 茨城県「スターズ」
- シニア混合の部
 - 第1位 神奈川県「芦子」
 - 第2位 千葉県「エミューズ」
 - 第3位 栃木県「エンドレス」
 - 第4位 茨城県「藤代フェニックス」
 - 第5位 埼玉県「長倉キングス」
 - 第6位 茨城県「土浦右羽同好会」
- 役員部の部
 - 第1位 栃木県「疾風（はやて）」
 - 第2位 群馬県「群馬上毛三山」
 - 第3位 神奈川県「カモメ」
 - 第4位 埼玉県「ダ・サイタマ」
 - 第5位 千葉県「フレンドシップス」
 - 第6位 東京都「いちよう」

